

平成 2 9 年度
京都市 H I V 感染症対策有識者会議

日 時 平成 3 0 年 3 月 2 7 日 (火)
午後 2 時～午後 3 時

場 所 京都府医師会館 2 1 2 会議室

京都市保健福祉局
医療衛生推進室 健康安全課

次 第

議題

第一 HIV・エイズの発生動向等について

- 1 京都市におけるHIV・エイズの発生動向について・・・7
- 2 京都市におけるHIV抗体検査について・・・9
- 3 その他の性感染症の発生動向について・・・12

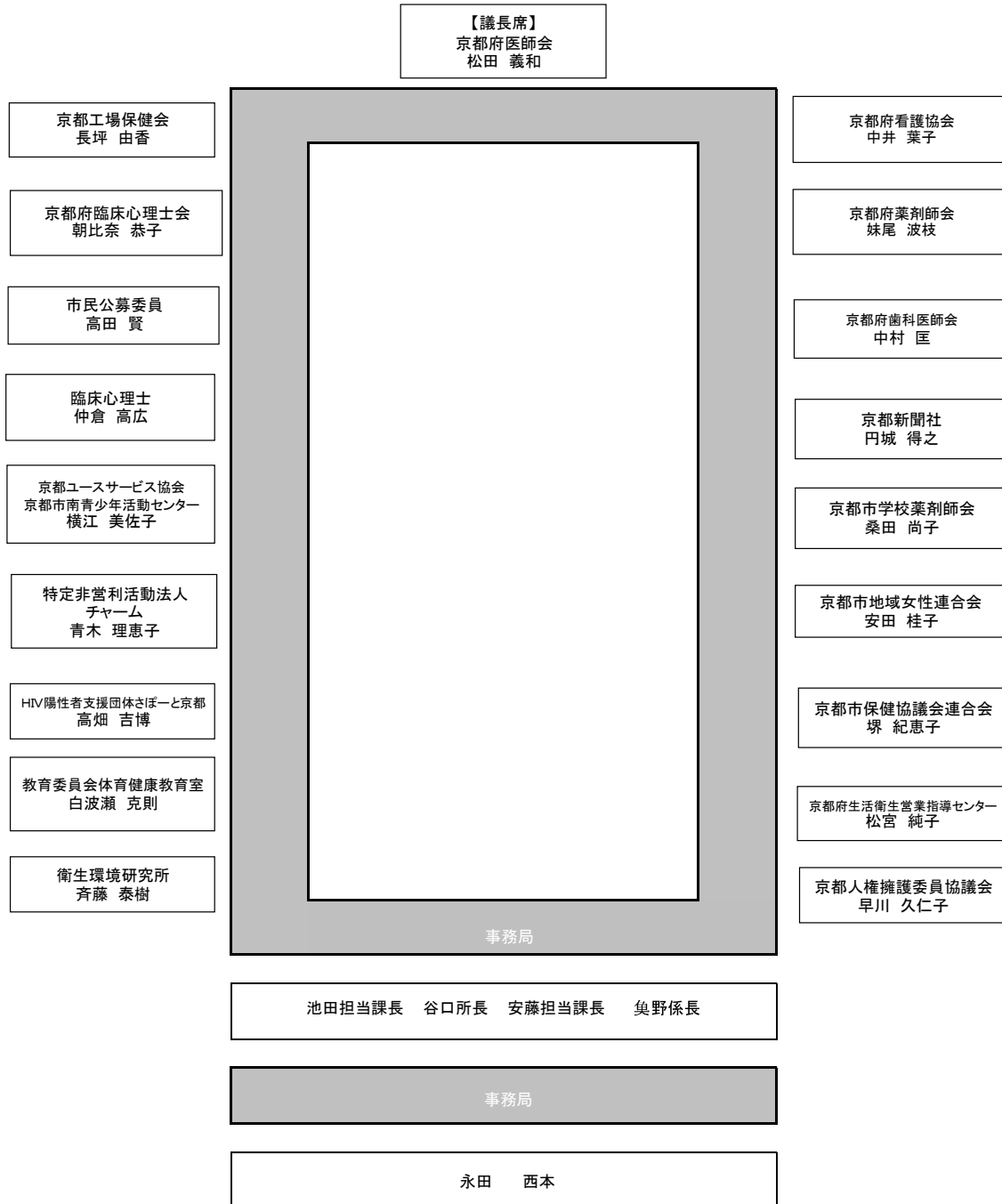
第二 京都市エイズ対策基本方針に基づく取組について

- 1 取組内容・・・14
- 2 今後の方向性（重点取り組み）・・・17

京都市HIV感染症対策有識者会議委員名簿

	所属	役職名	氏名	出欠 (予定)
1	一般社団法人京都府医師会	理事	松田 義和	
2	公益社団法人京都府看護協会	助産師職能理事	中井 葉子	
3	一般社団法人京都府薬剤師会	理事	妹尾 波枝	
4	一般社団法人京都府歯科医師会	理事	中村 匡	
5	京都商工会議所	事務局長・総務部長	才寺 篤司	御欠席
6	京都新聞社	報道部長	円城 得之	
7	京都市学校薬剤師会	常任理事	桑田 尚子	
8	京都市地域女性連合会	常任委員	安田 桂子	
9	京都市保健協議会連合会	北連合会会長	堺 紀恵子	
10	公益財団法人 京都府生活衛生営業指導センター	業務部長	松宮 純子	
11	京都人権擁護委員協議会	常務委員	早川 久仁子	
12	一般財団法人京都工場保健会	部長	長坪 由香	
13	京都府臨床心理士会	理事	朝比奈 恭子	
14	市民公募委員		高田 賢	
15	臨床心理士		仲倉 高広	
16	公益財団法人京都市ユースサービス協会 京都市南青少年活動センター	所長	横江 美佐子	
17	特定非営利活動法人チャーム	事務局長	青木 理恵子	
18	H I V陽性者支援団体さぼーと京都	代表	高畑 吉博	
19	京都市	教育委員会体育健康教育室	保健安全課長	白波瀬 克則
20		衛生環境研究所	所長	斉藤 泰樹
21		京都市保健所	保健所長	谷口 隆司
22		健康安全課	担当課長	池田 雄史
23			感染症予防担当課長	安藤 えつ子
24			感染症予防係長	梶野 朱実
25			感染症予防担当係員	西本 美穂
26			感染症予防担当係員	永田 亘

<座席表>



議題

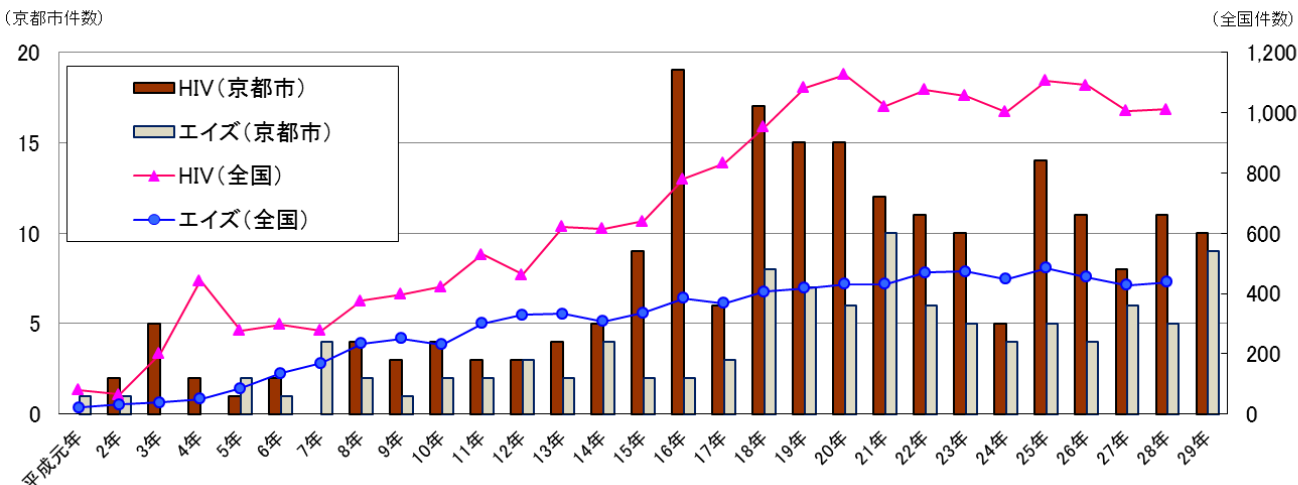
第一 HIV・エイズの発生動向等について

1 京都市におけるHIV・エイズの発生動向について

「HIV（ヒト免疫不全ウイルス）」に感染すると、身体を病気から守る免疫系が破壊され、身体の抵抗力が低下し、身のまわりに通常存在しているウイルス・細菌等に感染しやすくなり、様々な病気を発病する。この発病した状態のことを「エイズ」という。

感染症法により、HIV感染者・エイズ患者を医師が診断した場合、京都市長へ届け出ることになっており、以下はこの届出を集計したもの。京都市民とは限らない。（届出様式上、HIV陽性者はHIV感染者と標記する。）

(1) 新規HIV感染者・エイズ患者数（発生届から把握分）



本市の平成29年の新規HIV感染者報告数は10件（前年比－1件）、新規エイズ患者数は9件（前年比＋4件）で合計19件（前年比＋3件）であった。

HIV感染者とエイズ患者の発生件数の合計の内、エイズ患者数の占める割合は47.4%となり、全国値30.2%（平成28年）よりやや高かった。

(2) HIV感染者・エイズ患者数 診断時年齢別

(昭和62年～平成29年までの累計), ()内29年新規

年齢	HIV感染者	エイズ患者	計	割合(%)
20歳未満	2(1)	0	2(1)	0.6%
20～29	64(2)	9(2)	73(4)	22.7%
30～39	86(2)	35(1)	121(3)	37.7%
40～49	43(4)	34(4)	77(8)	24.0%
50～59	14	17(1)	31(1)	9.7%
60歳以上	5(1)	12(1)	17(2)	5.3%
計	214(10)	107(9)	321(19)	100%

本市の平成29年の新規HIV感染者の年齢は、10代～40代で幅広く報告されたが、中でも40代が最も多い4名であった。

新規のエイズ患者（感染していることに気づかずいきなりエイズとして把握した事例）は9人であり、40代に次いで20代が多かった。

(3) HIV感染者・エイズ患者数 感染経路別

(昭和62年～平成29年までの累計), ()内29年新規

	男性		女性		計	
異性間の性的接触	81	(5)	13	(1)	94	(6)
同性間の性的接触	153	(11)	0		153	(11)
その他・不明	64	(2)	10		74	(2)
計	298	(18)	23	(1)	321	(19)

男性が全体の92.8%を占め、そのうち同性間の性的接触を原因とするものが51.3%を占める。

(4) HIV感染者・エイズ患者数 感染経路・年齢別

(昭和62年～平成29年までの累計), ()内29年新規

	男性				女性				合計
	異性間 性的接触	同性間 性的接触	その他・ 不明	小計	異性間 性的接触	同性間 性的接触	その他・ 不明	小計	
20歳未満	0	1 (1)	1	2 (1)	0	0	0	0	2 (1)
20-29	13	44 (3)	12 (1)	69 (4)	4	0	0	4	73 (4)
30-39	35 (1)	58 (2)	18	111 (3)	2	0	8	10	121 (3)
40-49	23 (3)	28 (4)	20	71 (7)	5 (1)	0	1	6 (1)	77 (8)
50-59	9 (1)	12	8	29 (1)	2	0	0	2	31 (1)
60歳以上	1	10 (1)	5 (1)	16 (2)	0	0	1	1	17 (2)
計	81 (5)	153 (11)	64 (2)	298 (18)	13 (1)	0	10	23 (1)	321 (19)

前表(2)の年齢別内訳及び、(3)の感染経路別内訳を合わせると、男性で20～40代、同性間性的接触のグループにおいて多いことが分かる。

(5) HIV感染者・エイズ患者属性についての総括

HIV感染者及びエイズ患者の合計件数における、エイズ患者の割合が高い。早期発見・早期治療でエイズの発症を遅らせることが可能にもかかわらず、感染に気付かずエイズを発症してから発見されているため、早期の検査受検及び予防への行動変容が重要である。

また、年齢では、HIV感染者は幅広い年代で報告があり、エイズ患者は40代に続いて20代の若い世代も目立った。なお、平成29年に新規で報告があった19名のうち全員が日本国籍であり、感染経路は性的接触が17名(同性10名、異性6名、両性1名)、不明が2名であった。同性間の性的接触による感染が多いが、異性間の感染もあり、MSM(男性と性的接触を行う男性)や若年層を含む幅広い対象に向けた啓発の必要性がある。

2 京都市におけるH I V抗体検査について

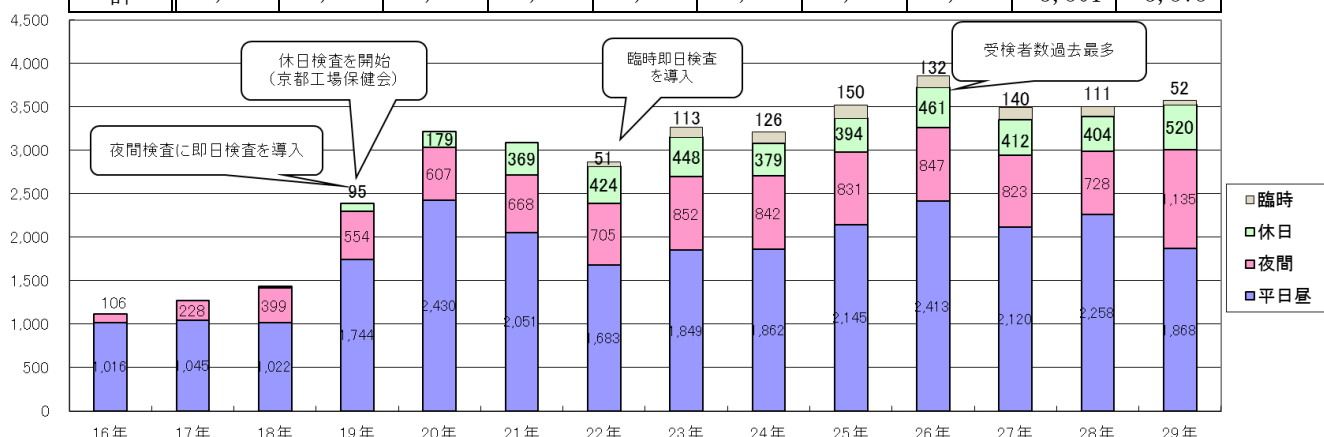
平成29年度から、需要の高い夜間検査を月2回から毎週（月4～5回）に、土曜検査を土日検査（休日検査）として月2回から月4回（日曜も含む）に増やし、受検いただきやすい体制に拡充した。さらに、これまで昼間検査のみで実施していた性感染症検査についても、夜間、土日検査でも実施するなど検査の充実を図った。

それに伴い、全区の保健センターで毎週1回実施していた昼間検査を、アクセスが良好で利便性が高く利用者の多い、下京区役所に集約し、週4回実施している。

検査時のアンケートは引き続き実施し、把握された受検者の意識並びに行動を集計・分析し、今後のエイズ対策事業や感染症予防事業に活用する。

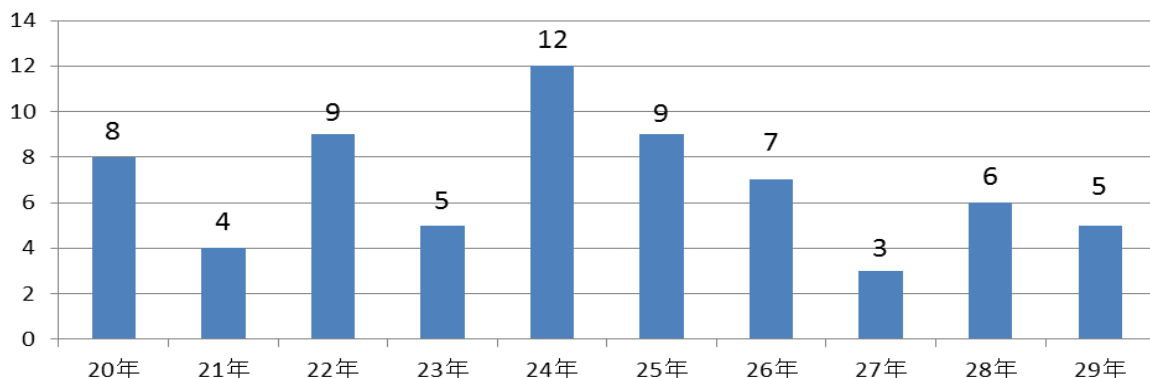
(1) 検査件数

	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
昼間	2,430	2,051	1,683	1,849	1,862	2,145	2,413	2,120	2,258	1,868
夜間	607	668	705	852	842	831	847	823	728	1,135
休日	179	369	424	448	379	394	461	412	404	520
臨時	—	—	51	113	126	150	132	140	111	52
計	3,216	3,088	2,863	3,262	3,209	3,520	3,853	3,495	3,501	3,575



(2) 陽性発見数

	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
受検者数	3,368	2,913	3,009	3,245	3,192	3,586	3,853	3,495	3,501	3,575
陽性者数	8	4	9	5	12	9	7	3	6	5
陽性発見率	0.23%	0.13%	0.29%	0.15%	0.37%	0.18%	0.18%	0.08%	0.17%	0.14%



本市実施のH I V検査における陽性者発見数は年間3～12名と多少のばらつきはあるが、陽性者率は0.1～0.4%程度で、これは全国と同水準である。

(3) 性別（平成28年度検査アンケートより）

男性	女性	不明	計
2,212	1,231	14	3,457
(64.0%)	(35.6%)	(0.4%)	(100%)

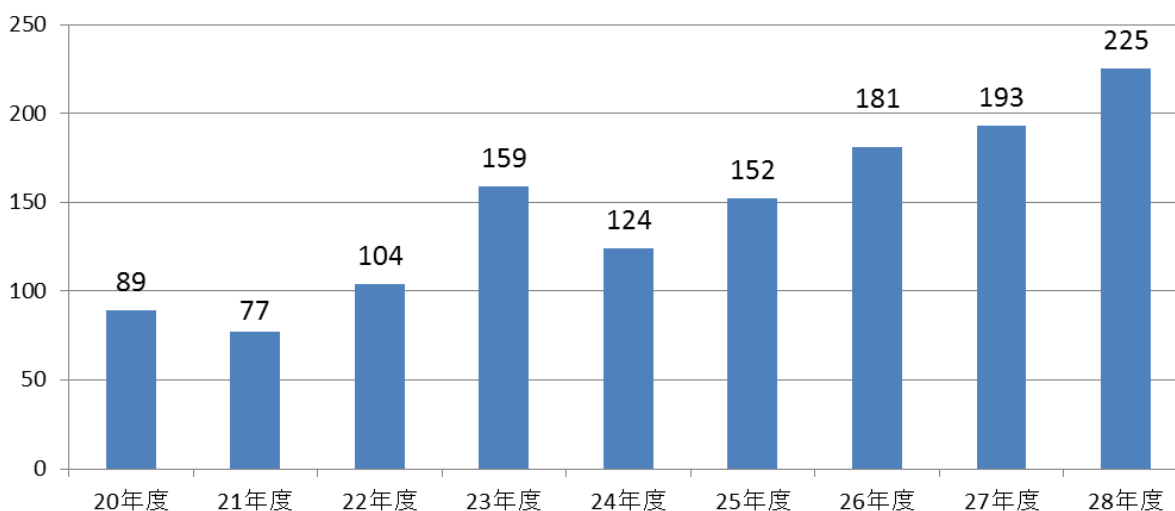
平成28年度に京都市HIV抗体検査を受け、アンケートに回答があったのは3,457名であった。このうち男性は2,212名（64.0%）、女性は1,231名（35.6%）であった。

(4) 年齢（平成28年度検査アンケートより）

～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～	不明	計
106	1,473	978	550	210	125	15	3,457
(3.1%)	(42.6%)	(28.3%)	(15.9%)	(6.1%)	(3.6%)	(0.4%)	(100%)

平成28年度HIV検査受検者は20代が最も多く、30代、40代と続く。発生動向におけるHIV感染者・エイズ患者のうち、最も多い40代の受検者割合は15.9%にとどまっている。

(5) 外国人受検者数（検査アンケートより）



	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
日本・不詳	3,279	2,836	2,905	3,086	3,068	3,434	3,628	3,275	3,232
外国人	89	77	104	159	124	152	181	193	225
合計	3,368	2,913	3,009	3,245	3,192	3,586	3,809	3,468	3,457
外国人の割合	2.6%	2.6%	3.5%	4.9%	3.9%	4.2%	4.7%	5.6%	6.5%

平成28年度HIV検査受検者の内、外国人受検者は225（前年比+32）であり、全受検者の6.5%と過去最高となった。

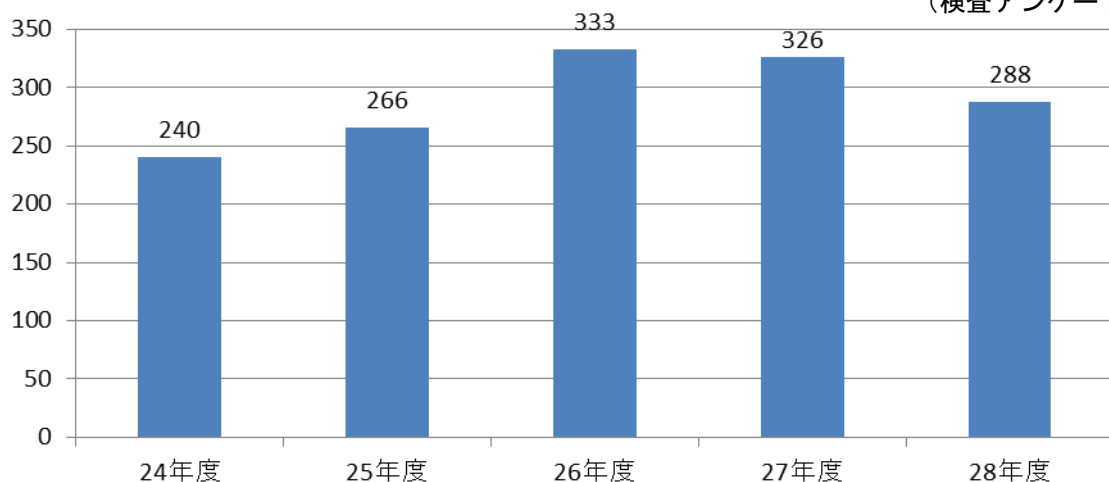
本市では、夜間検査において事前予約制で通訳を派遣して対応している。

（NPO法人CHARM委託事業、平成28年度通訳派遣数：13件）

(6) MSM (男性と性的接触を行う男性) 受検者数

性的関係の感染を心配する男性受検者1,886人中、MSMは288人で、その割合は15.2%となり、割合は前年度より増加している。

(検査アンケートより)



	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
性的感染を心配する男性受検者	1,724	1,950	2,017	2,900	1,886
MSM	240	266	333	326	288
MSMの割合	13.9%	13.6%	16.5%	11.2%	15.2%

(7) 京都市のHIV抗体検査受検者の属性についての総括

平成29年度から検査体制が変更したが、これまでとほぼ同数の受検者数となっている。また、性感染症検査については、夜間及び土日検査に拡充したことにより、受検者数が1.5倍以上となる見込みである。

HIV感染症は予防が可能な感染症であり、HIVに感染していない者は、適切な予防策をとること、HIVの感染者は、まず自分の感染を知り、治療につなげることが、今後の感染拡大を防ぐために重要となるため、検査を普及・啓発していく必要がある。

また、発生動向から診断時にエイズを発症している割合が増加しており、早期発見できるように効果的・効率的な検査体制の整備及び啓発が重要である。

3 その他の性感染症の発生動向について

(1) 梅毒について

ア 梅毒とは

- ・ 皮膚や粘膜の小さな傷から、トレポネーマという病原菌が侵入し発症する。
- ・ 性的接触によって感染し、赤い発疹の出現等、全身に様々な症状が出る。
- ・ 早期の薬物治療で完治可能だが、治療せずに放置すると、脳や心臓に重大な合併症を起こすことがある。

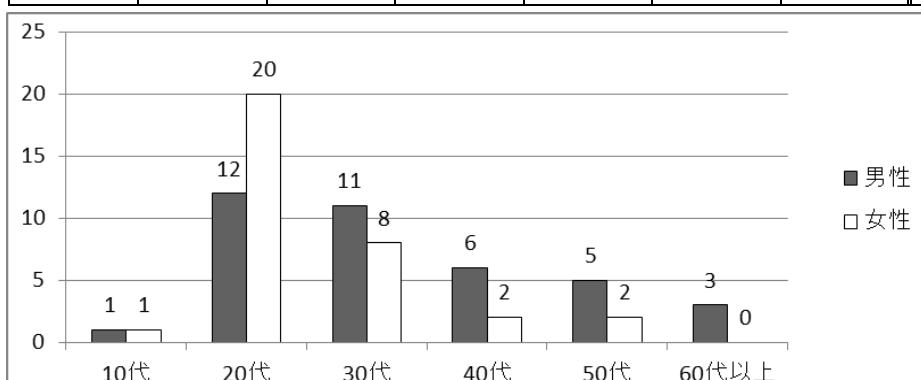
イ 発生動向と傾向

全国における平成28年の梅毒患者数は、感染症法で届出が義務付けられて以来42年ぶりに4千人を超え、平成29年についても、前年を上回る5,770人の報告があった。京都市においても、平成25年以降発生件数の増加(約9倍)がみられる。特に若い女性での増加率が高く、妊娠中に感染すると死産や胎児に障害が起きる可能性があるため、感染予防のための啓発や、検査による早期発見が重要である。

	全国			京都市		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
平成25年	1,228	993 (80.9%)	235 (19.1%)	8	7 (87.5%)	1 (12.5%)
平成26年	1,661	1,284 (77.3%)	377 (22.7%)	11	9 (81.8%)	2 (18.2%)
平成27年	2,697	1,934 (71.7%)	763 (28.3%)	38	23 (60.5%)	15 (39.5%)
平成28年	4,559	3,174 (69.6%)	1,385 (30.4%)	51	28 (54.9%)	23 (45.1%)
平成29年 (速報値)	5,770	—	—	71	38 (53.5%)	33 (46.5%)

○平成29年梅毒発生件数内訳(性別・年齢別)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	1	12	11	6	5	3	38
女性	1	20	8	2	2	0	33

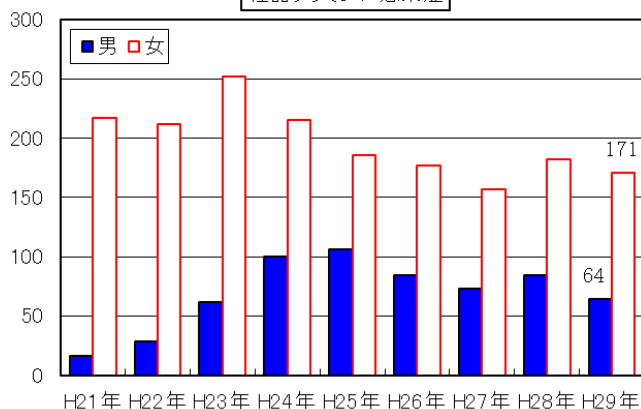


ウ 現状と対策【資料1】

- ・ 男性の感染者の方がやや多いが、女性の増加率が高い。
- ・ 性行動の活発化等が原因と考えられている。予防には、不特定多数との性的接触は避け、コンドームを適切に使用することが大切である。
- ・ 梅毒増加を受け、本市においてチラシを作成し、各区役所・支所にて掲示している。また、ホームページへの啓発内容の掲載や青年期健診の案内に同封予定。

(2) 「性器クラミジア」「淋菌感染症」「尖圭コンジローマ」「性器ヘルペスウイルス感染症」について（定点医療機関（市内13カ所）からの報告）

性器クラミジア感染症

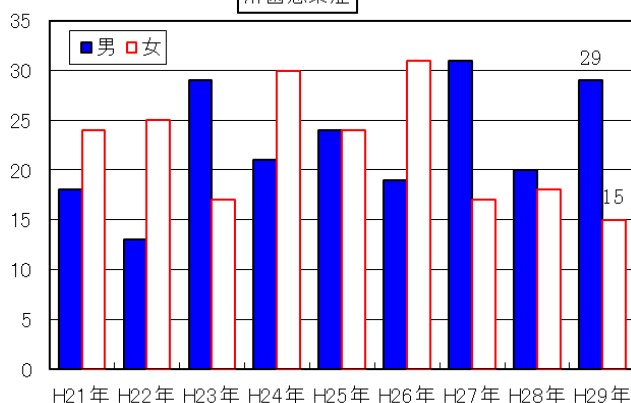


○性器クラミジア感染症

最も感染者が多い性感染症。

感染すると、男性は尿道にかゆみ等の違和感がある。女性は帯下が増えて腹痛を起こしやすくなるものの、感染に気づかないケースが多く、不妊の原因にもなる。

淋菌感染症

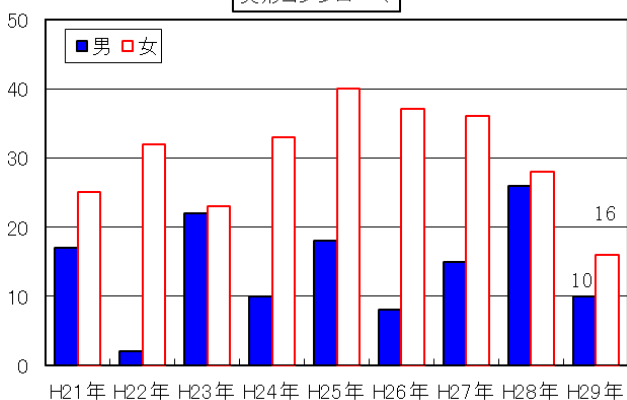


○淋菌感染症

感染すると、男性は排尿の際に痛みが走り、濃い黄色の膿が出る。

女性帯下が多くなるものの、通常は痛みを感じることがなく、感染に気がつきにくい。

尖形コンジローマ

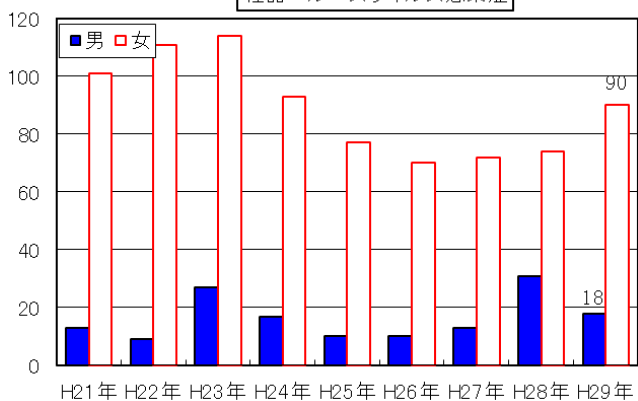


○尖圭コンジローマ

ヒト・パピローマ・ウイルスに感染して発症する。性器や肛門のまわりにイボができる。

自覚症状がない場合が多いが、性器にかゆみや痛みを感じることもある。

性器ヘルペスウイルス感染症



○性器ヘルペスウイルス感染症

ヘルペスの病変部と接触することにより発症する。男女とも性器に小さな水泡が多数でき、痛みとかゆみが続く。ヘルペスに一度感染すると、その後はウイルスを死滅させることができない。ただし、再発を抑える治療を行うことは可能。

第二 京都市エイズ対策基本方針に基づく取組について

【京都市エイズ対策基本方針 基本4施策】

- 1 正しい知識とH I V陽性者の人権擁護のための普及啓発及び教育の推進
- 2 相談体制，関係機関連携の充実及び人材育成
- 3 市民が受けやすい検査体制の整備
- 4 H I V陽性者が安心して療養できる体制の整備

1 取組内容

(1) 取組一覧

実施月	内 容
4月	・H I V検査啓発ポスター，チラシの送付 (各区役所，図書館，市内大学，短期大学，専門学校，高等学校等)
5月	・「PLANET」による第25回エイズキャンドルパレード後援
6月	☆6/1～6/7 H I V検査普及週間 ・市民しんぶんに検査普及週間について掲載 ・H I V，性感染症啓発パンフレットの送付 (市内大学，短期大学，専門学校，高等学校等)
8月	・第7回A I D S文化フォーラムイベント共催
10月	・第7回A I D S文化フォーラム i n 京都共催 (臨時H I V検査実施，講演「H I V及び性感染症の検査を考える」)
11月	・世界エイズデー啓発ポスター配布(厚労省作成分) 各区役所，図書館，市内大学，短期大学，専門学校等
12月	☆12/1 世界エイズデー ・街頭啓発キャンペーン(約500人来場) (日時：12/1(金)午後5時～8時，場所：イオンモール京都桂川) ・地下鉄広告掲出 ・H I V検査啓発ポスター，リーフレットの送付 (各区役所，図書館，市内大学，短期大学，専門学校，高等学校等)
1月	・成人式啓発チラシ配布
3月	・梅毒チラシ作成

2 普及啓発の取組について

(1) 啓発パンフレット・グッズの作成について

作成物	配布方法
バッグ型クリアファイル	世界エイズデー街頭啓発キャンペーンや出前教室等
マスキングテープ	世界エイズデー街頭啓発キャンペーンや出前教室等
リーフレット	世界エイズデー街頭啓発キャンペーンや出前教室等 各区役所・支所に配架 市内大学・高校や関係機関に送付
パンフレット3種	市内大学・高校に送付 検査受検者に配布
地下鉄横枠広告	12月1日～12月31日掲示 各区役所・支所に掲示

【例：地下鉄横枠広告】



(2) AIDS文化フォーラム in 京都 (第7回)

若者をはじめとした多くの市民の皆様が、エイズについて学び、性に関する文化や多様性への理解を深めていただくことを目的に、「第7回AIDS文化フォーラム in 京都～レッドリボン大作戦～」をAIDS文化フォーラム in 京都運営委員会及び京都府と共催で開催した。

日 時	平成29年9月30日(土) 午後0時30分から6時30分 平成29年10月1日(日) 午前10時～午後5時
場 所	同志社大学 新町キャンパス 尋真館
実施内容	○講演 「HIV及び性感染症の検査を考える」 西本美穂(京都市) (共同講演者) 中瀬克己氏(岡山大学), 川畑拓也氏(大阪健康安全基盤研究所) ○臨時HIV検査 実施日時 10月1日(日) 午前11時30分～午後3時 ※無料, 匿名, 予約不要。結果は約1時間後に面接にてお渡し。 受検者: 52名
広報等	・広報発表(8月18日), 市民しんぶん9月1日号 ・ホームページ掲載(京都市情報館)

(3) 世界エイズデー関連事業の実施について

市民がエイズについて関心を持ち、理解を深めていただくため、街頭啓発キャンペーンを実施した。

【街頭啓発キャンペーン】

日 時	平成29年12月1日（金） 午後5時から8時
場 所	イオンモール京都桂川 竹の広場
運営スタッフ	関係団体（京都市ユースサービス協会，PLANET，京都理容美容専修学校，京都府），京都市
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・HIV／エイズ啓発パネル展示（京都市ユースサービス協会） ・HIV／エイズ啓発クイズ（PLANET） 約20名参加 ・レッドリボンネイル（京都理容美容専修学校） 約60名参加 ・ブレスレット作成（紅紐） 約50名参加 ・アーティストによる音楽イベント ・アクアリウム作成（京都市） 約80名参加 ・HIV啓発クリアファイル（啓発パンフ入） 約500個 ・エイズに関するアンケート調査 171名 ・エコちゃん出演 ・夜間検査予約受付
広報等	<ul style="list-style-type: none"> ・広報発表（11月2日） ・ホームページ掲載 （京都市情報館，イオンモール京都桂川ホームページ） ・啓発ビラ配布（当日，イオンモール入口にて配布）

(4) 思春期健康教育の実施について【資料2】

本市では、各区役所・支所医療衛生コーナーを中心に、母子事業と連携し、中高生等を対象とした性感染症予防等の健康教育，出前教室に取り組んでいる。

2 今後の取り組みについて

(1) 若い世代に向けた啓発

平成29年の京都市のH I V感染者・エイズ患者の報告において、20歳未満の報告があったこと、また、20代の報告数が増加したこと、さらに、梅毒患者数も急増しており、そのうち20代が占める割合が多いことから、若い世代への検査や正しい知識の啓発を行う必要がある。

具体的な対策（案）

- ・若い世代への啓発として、大学や専門学校に対するアプローチを行う。
(アンケートの実施、教師向けの研修の開催、SNSの利用等)

(2) H I V検査の周知及び陽性者支援【資料3】

京都市は他の政令市と比べて、H I V感染者とエイズ患者の発生件数の合計の内、エイズ患者数の占める割合が高いため、早期発見・早期治療のために検査を周知していく必要がある。

また、検査でH I V陽性と判明した方が確実に受診し、必要な支援に繋がるようにする支援が重要である。

具体的な対策（案）

- ・H I V陽性と判明した方への支援についての冊子「たんぽぽ」を作成する。

たんぽぽとは：

東京都が作成しているパンフレットで、感染告知を受けて間もないH I V陽性者に対し、検査告知の場面や医療機関において必要な情報を提供するためのもの。陽性者の手記や、社会資源、相談窓口等を盛り込んだ内容とする。他に大阪版、神奈川県版、千葉県版、愛知県版、秋田県版、島根県版がある。

